

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2013-215337

(P2013-215337A)

(43) 公開日 平成25年10月24日(2013.10.24)

(51) Int.Cl.
A61C 17/20 (2006.01)F I
A61C 17/00

テーマコード (参考)

J

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2012-87260 (P2012-87260)
(22) 出願日 平成24年4月6日(2012.4.6)(71) 出願人 512091257
遠藤 真弓
東京都千代田区平河町二丁目7-10 平
河町レジデンス1502
(74) 代理人 100140109
弁理士 小野 新次郎
(74) 代理人 100075270
弁理士 小林 泰
(74) 代理人 100096013
弁理士 富田 博行
(74) 代理人 100092967
弁理士 星野 修
(74) 代理人 100101373
弁理士 竹内 茂雄

最終頁に続く

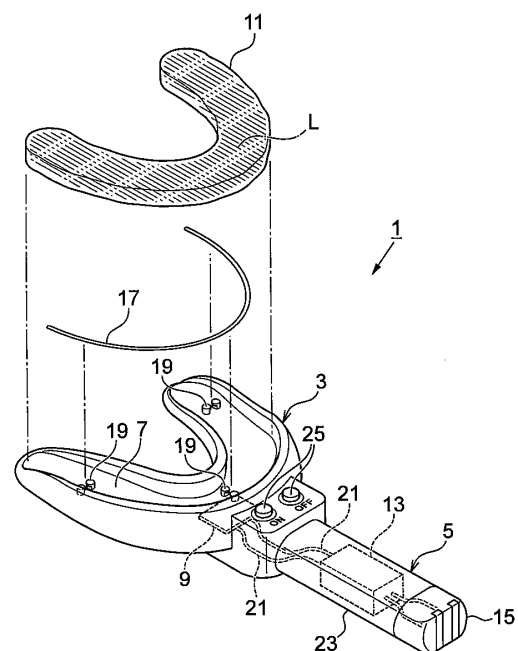
(54) 【発明の名称】 口内洗浄器

(57) 【要約】

【課題】健康上の理由や時間的な理由で歯磨きが困難な人に対して簡単な操作で短時間で効果的な口内洗浄が可能な口内洗浄器を提供する。

【解決手段】上記課題を解決するために本発明の口内洗浄器1は、口内洗浄時に使用者の口腔内に入れる洗浄器本体3を備えた手持ち式の口内洗浄器であって、前記洗浄器本体3には、使用者の上顎ないし下顎の形に合わせて成形される湾曲した形状の洗浄凹部7と、前記洗浄凹部7近傍の洗浄器本体3の適宜の位置に配置される振動子9と、前記洗浄凹部7に収容される洗口液Lを湿らせて保持する吸液性を有する保持部材11とが設けられている。支持部5を備えていてもよく、前記振動子9に音波ないし超音波による振動を発生させるための電気信号を生成する振動発生部13と、該振動発生部13を駆動するための電源を供給する電源供給部15と支持部に設けられている。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

口内洗浄時に使用者の口腔内に入れる洗浄器本体を備えた口内洗浄器であって、

前記洗浄器本体には、使用者の上顎または下顎の形、あるいは上顎および下顎の形に合わせて成形される湾曲した形状の洗浄凹部と、前記洗浄凹部近傍の洗浄器本体の適宜の位置に配置される振動子と、前記洗浄凹部に収容される洗口液を湿らせて保持する吸液性を有する保持部材とが設けられており、

前記振動子に音波ないし超音波による振動を発生させるための電気信号を生成する振動発生部と、該振動発生部を駆動するための電源を供給する電源供給部とを備えていることを特徴とする口内洗浄器。

10

【請求項 2】

請求項 1 に記載の口内洗浄器において、

前記洗浄器本体は、同一の洗浄器本体を使用して上顎側の歯と下顎側の歯の両方を洗浄し得るように構成されていることを特徴とする口内洗浄器。

【請求項 3】

請求項 1 に記載の口内洗浄器において、

前記洗浄器本体は、上顎側の歯を洗浄する上顎側本体部と下顎側の歯を洗浄する下顎側本体部との両方が設けられた一体型の洗浄器本体であって、上顎側の歯と下顎側の歯を同時に洗浄し得るように構成されていることを特徴とする口内洗浄器。

【請求項 4】

20

請求項 1 に記載の口内洗浄器は、使用時と保管時で大きさを変えることができる折り畳み構造を備えることを特徴とする口内洗浄器。

【請求項 5】

請求項 1 に記載の口内洗浄器において、

前記洗浄器本体は、使用者の顎の大きさに合わせて選択して使用し得るようにサイズの違う複数の大きさの洗浄器本体が予め用意されていることを特徴とする口内洗浄器。

【請求項 6】

請求項 1 に記載の口内洗浄器において、

前記洗浄器本体を支持すると共に使用時に手で握って操作する支持部を備えることを特徴とする口内洗浄器。

30

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、歯に付着した歯垢や口腔内に潜む嫌気性菌の除去に使用できる口内洗浄器に係り、歯磨きが苦手な人、加齢や健康上の理由で歯磨きが困難な人、あるいは時間に追われて歯磨きに十分な時間を取れない人に好適な口内洗浄器に関する。

【背景技術】

【0002】

歯に付着した歯垢の除去には、従来から歯ブラシが一般に使用されている。また、歯ブラシを使用して歯を磨く場合には、磨き方によって歯垢の除去の程度に差が出てしまい、磨き残しが出たり歯茎を傷付けたりする場合がある。

40

そこで最近では、モータの回転運動や高速振動を利用した電動歯ブラシや音波歯ブラシが普及しており、下記の特許文献 1～5 に示すような超音波振動を利用した更に細かな歯垢や細菌等も除去し得る超音波歯ブラシも登場してきている。そして、上記音波歯ブラシや超音波歯ブラシでは、通常の歯ブラシを使用した場合に使用者の磨き方によって差が出ていた上記磨き残しを少なくし、歯磨きに要する労力の一層の軽減が図られている。

【0003】

一方、歯周病の原因となる口腔内に潜む嫌気性菌の除去には、口に含んで使用する洗口液が利用されている。しかし、洗口液だけでは歯に付着した歯垢を除去することができないため、上記通常の歯ブラシや電動歯ブラシ等と併用する形で一般に使用されている。

50

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献1】特開2009-247800号公報

【特許文献2】特開2005-177253号公報

【特許文献3】特開2004-148079号公報

【特許文献4】特開2007-54148号公報

【特許文献5】特開2009-45345号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

10

【0005】

しかし、加齢や健康上の理由で歯磨きが困難な人の中には、上記電動歯ブラシ等を使用することが難しい人がある。そして、このような人には介助者等が手伝って歯磨きを行うことになるが、歯磨きを行う人、歯磨きをされる人双方にとって気を遣う、面倒な作業となっている。また電動歯ブラシの使用は歯茎を傷つける原因になる場合がある。

一方、水を流しながらサクション機能を利用して口内洗浄を行う装置も開発されているが、装置が大掛かりになり、一般的ではないので病院等の一部の利用に留まり普及を見ていない。

また、電動歯ブラシのみならず、従来の通常の歯ブラシを使用する場合には、所謂横磨きをすることにより歯がブラシにより削れてしまうことがあるという問題点がある。更にブラッシングの方法は人により様々であるため、皆が統一した正しい歯磨きの仕方をして

20

いるとは云えないという問題点がある。

更にまた、出勤や登校前の朝の忙しい時間帯には、時間に追われて歯磨きに十分な時間が取れない人が多数存在しており、短時間で効果的な歯垢と嫌気性菌の除去とを同時に行える口内洗浄器の開発が望まれている。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明者は鋭意検討を重ねた結果、従来の歯ブラシあるいは電動歯ブラシの上記問題点を解決するために、ブラシ自体が存在せず、使用者全員が統一した歯磨きを短時間で行うことができる口内洗浄器の開発をするに至った。

30

即ち本発明の口内洗浄器は、口内洗浄時に使用者の口腔内に入れる洗浄器本体を備えた口内洗浄器であって、前記洗浄器本体には、使用者の上顎または下顎の形、あるいは上顎および下顎の形に合わせて成形される湾曲した形状の洗浄凹部と、前記洗浄凹部近傍の洗浄器本体の適宜の位置に配置される振動子と、前記洗浄凹部に収容される洗口液を湿らせて保持する吸液性を有する保持部材とが設けられており、前記振動子に音波ないし超音波による振動を発生させるための電気信号を生成する振動発生部と、該振動発生部を駆動するための電源を供給する電源供給部とを備えていることを特徴とするものである（第1の態様）。

【0007】

上記発明において、前記洗浄器本体は、同一の洗浄器本体を使用して上顎側の歯と下顎側の歯の両方を洗浄し得るように構成されていてもよい（第2の態様）。

40

【0008】

上記発明において、前記洗浄器本体は、上顎側の歯を洗浄する上顎側本体部と下顎側の歯を洗浄する下顎側本体部との両方が設けられた一体型の洗浄器本体であって、上顎側の歯と下顎側の歯を同時に洗浄し得るように構成されていてもよい（第3の態様）。

【0009】

上記発明において、使用時と保管時で大きさを変えることができる折り畳み構造を備えていてもよい（第4の態様）。

上記発明において、前記洗浄器本体は、使用者の顎の大きさに合わせて選択して使用し得るようにサイズの違う複数の大きさの洗浄器本体が予め用意されていてもよい（第5の

50

態様)。

【0010】

上記発明において、前記洗浄器本体を支持すると共に使用時に手で握って操作する支持部を備えていてもよい(第6の態様)。

【発明の効果】

【0011】

第1の態様によれば、振動発生部によって振動子に音波ないし超音波による振動を発生させ、更に洗口液を湿らせた保持部材の存在によって当該振動を大きく減衰させることなく、効率良く口内洗浄に利用できるようになる。本発明ではブラシを使用しないため、歯の削れの問題が解消され、また従来のように歯ブラシを動かすという動作を必要としないため、使用者全員が統一した歯磨きを短時間で行うことができる。

また、音波ないし超音波の伝達効率の向上に寄与する上記保持部材に湿らせた洗口液は、該洗口液による口腔内の殺菌効果によって、前述した歯周病の原因となる嫌気性菌等の除去にも寄与している。

また、上顎側ないし下顎側の歯を一度に短時間で洗浄できるため、超音波歯ブラシを使用する場合のように、歯を1本、1本時間をかけて丁寧に磨かなくても所望の歯垢と嫌気性菌等の除去効率の向上が図られる。

【0012】

第2の態様によれば、上顎側の歯を洗浄する場合と、下顎側の歯を洗浄する場合とで、洗浄器本体を付け替えることなく、上顎用と下顎用の共用構造の単一の洗浄器本体によって上顎側と下顎側の両方の歯の洗浄を連続的に実施することが可能になる。

従って、本態様によれば、部品点数が少なく構造が簡単で安価な口内洗浄器が提供できるようになる。

【0013】

第3の態様によれば、上顎側の歯を洗浄する上顎側本体部と下顎側の歯を洗浄する下顎側本体部の両方が予め設けられているから、これら2種類の洗浄器本体を同時に使用することで上顎側の歯と下顎側の歯の洗浄を一挙に行うことができ、更に短時間に口内洗浄を行うことが可能になる。

【0014】

第4の態様によれば、使用しない場合には、折り畳んでコンパクトな形状にすることが可能になる。従って、持ち運びが便利になり、保管スペースも小さくて済むようになる。

【0015】

第5の態様によれば、性別や年齢、体の大きさ等によって異なる種々の顎の大きさに合わせて、当該使用者にとって最適な大きさの洗浄器本体を選択できるようになる。従って、使用者は自分に合った大きさの洗浄器本体を選んで直ちに当該口内洗浄器を使用して口内洗浄を実施することが可能になる。

第6の態様によれば、使用者が支持部を操作して洗浄器本体を口内の適切な位置に容易にセッティングすることができる。

【図面の簡単な説明】

【0016】

【図1】本発明の実施の形態に係る口内洗浄器を示す分解斜視図である。

【図2】本発明の実施の形態に係る口内洗浄器を示す平面図である。

【図3】本発明の実施の形態に係る口内洗浄器を示す側断面図である。

【図4】本発明の他の実施の形態に係る口内洗浄器を示す側断面図である。

【図5】本発明の更に他の実施の形態に係る口内洗浄器の2種類の態様(a)(b)を示す平面図である。

【発明を実施するための形態】

【0017】

以下において、本発明の口内洗浄器について図面を参照しながら詳細に説明する。

本発明の口内洗浄器1は、口内洗浄時に使用者の口腔内に入れる洗浄器本体3と、該洗

10

20

30

40

50

浄器本体 3 を支持する支持部材としての機能と使用時に手で握って操作する把持部としての機能を併せ持つ支持部 5 とを基本的に備えることによって構成される口内洗浄器である。なお把持部として機能する支持部 5 は必ずしも必要ではなく、支持部 5 が存在しない口内洗浄器 1 でもよい。この場合には、使用者は洗浄器本体 3 自体を持って操作することになる。

【0018】

また、前記洗浄器本体 5 には、使用者の上顎または下顎の形、あるいは上顎および下顎の形に合わせて成形される湾曲した形状の洗浄凹部 7 と、該洗浄凹部 7 の近傍の洗浄器本体 3 の適宜の位置に配置される振動子 9 と、上記洗浄凹部 7 に収容される洗口液 L を湿らせて保持する吸液性を有する保持部材 11 とが設けられている。

10

また、前記支持部 5 には、上記振動子 9 に音波ないし超音波による振動を発生させるための電気信号を生成する振動発生部 13 と、該振動発生部 13 を駆動するための電源を供給する電源供給部 15 とが設けられている。なお支持部 5 が存在しないタイプの口内洗浄器 1 では、電源供給部 15 は洗浄器本体 5 に直接設けるようにする。

【0019】

上記洗浄器本体 5 は、使用者の口腔内に入れた時に口腔内の粘膜や歯茎を傷付けたりしない材質であること、口腔内に入れることが可能な安全な材質であること、繰り返して使用することが可能な耐久性と強度を備えた材質であることが必要であり、本実施形態では一例としてレジン製の洗浄器本体 5 が採用されている。

この洗浄器本体 5 は、図 2 に示すように平面視 U 字状に湾曲しており、側面視では、先端側がやや低く基端側が高くなるように幾分傾斜した形状に形成されている。

20

【0020】

また、上記洗浄凹部 7 は、上記平面視 U 字状の洗浄器本体 5 の周方向に沿うように、その周長全体に亘って形成されている断面形状が U 字形状の周溝によって構成されている。そして、当該洗浄凹部 7 の深さも先端側で浅く、基端側で深くなるように形成されている。

また、上記洗浄凹部 7 の底面には電極 17 となる金属線等を保持するための係止凸部 19 が適宜設けられている。

【0021】

また、上記洗浄凹部 7 の底面に近い洗浄器本体 3 の底部に板状の振動子 9 が配設されており、リード線 21 等の配線を介して支持部 5 側に設けられている振動発生部 13 に接続されている。

30

また、上記洗浄器凹部 7 に収容される保持部材 11 としては、洗口液 L の吸液性と保液性に優れた適宜の材料、例えばスポンジや綿、フェルト等が使用できる。また、この保持部材 11 は消耗したら交換される。

【0022】

また、上記保持部材 11 に含浸される洗口液 L としては、歯周病の原因となる嫌気性菌等の口内細菌に対する殺菌成分を含んだ種々の洗口液 L が適用でき、本実施の形態では一例としてジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社が製造・販売する登録商標「リステリン」が使用できる。

40

「リステリン」には、口内細菌の殺菌、除去成分として 1,8-シネオール、チモール、サリチル酸メチル、l-メントールの 4 つの有効成分が含まれており、これらの有効成分用の溶剤としてエタノール、保存剤として安息香酸、その他溶剤補助剤、着色剤、PH 調整剤が含まれている。

【0023】

そして、本実施の形態では、同一の洗浄器本体 5 を使用して上顎側の歯と下顎側の歯の両方を洗浄し得るように、上顎側の歯と下顎側の歯に対応した共用構造の洗浄器本体 5 になっている。

また、上記振動子 9 は、振動発生部 13 から伝達された電気信号に基づいて音波ないし超音波による振動を生起させて上記洗口液 L が含浸されている上記保持部材 11 を振動さ

50

せる部材である。そして、この振動子 9 によって生起された音波ないし超音波による微細振動が洗浄対象となる歯の表面、歯茎、歯肉との境目等に作用して、これらの表面に付着している汚れや歯垢の除去と、口内細菌の塊であるバイオフィームに浸透して嫌気性菌の殺菌と除去とを行っている。

【0024】

尚、音波とは、人の耳に聞こえる 20 Hz ~ 20 KHz 程度の可聴周波数域の音の振動によって発生する波動を意味し、口内洗浄にはこのうち 200 ~ 300 Hz 程度の周波数域の音波を一例として使用する。

そして、このような音波を使用した場合には、口内洗浄器 1 の作動の有無を音によって確認することができ、歯ブラシの毛先が到達することができない深い位置のプラーク（歯垢）に上記音波振動が作用して歯垢等の除去を行うことができるようになる。

10

【0025】

一方、超音波とは、上記可聴周波数域を超える人の耳に聞こえない高い周波数の音の振動によって発生する波動を意味し、口内洗浄には 1.6 ~ 2 MHz 程度の周波数域の超音波を一例として使用する。

そして、このような超音波を使用した場合には、上述した周波数域の音波では難しかった歯のプラークの細菌や歯にこびり付いた不溶性グルカン（歯垢のもととなる大きな汚れ）まで除去することができるようになる。

【0026】

支持部 5 は、手で握ることができる太さで握り易い形状をしたケーシング 23 と、該ケーシング 23 の内部に配置される上述した振動発生部 13 と、該振動発生部 13 を駆動する電源供給部 15 と、上記ケーシング 23 の表面側に配置される操作スイッチ 25 等を備えることによって基本的に構成されている。

20

ケーシング 23 の材料としては、成形が容易で必要な剛性が確保できて軽量の合成樹脂材料等が一例として利用できる。

【0027】

また、振動発生部 13 には、上述した振動子 9 に供給する電気信号を生成するための発振回路が形成された電子基板等が組み込まれている。

また、電源供給部 15 としては、携帯電話等に使用されている充電式のバッテリーが使用でき、図示しない付属の充電器等を利用して使用しない時に適宜、電源供給部 15 を充電しておくように構成されている。

30

尚、電源供給部 15 としては、乾電池や家庭用外部電源用のコンセントに挿し込む電源プラグ等を備える構成であっても勿論構わない。

【0028】

また、上記洗浄器本体 3 と支持部 5 は、分離可能な構成が望ましく、口内洗浄に使用した後、洗浄器本体 3 を支持部 5 から取り外して、洗浄器本体 3 のみを水洗いしたり、消毒できるように構成する。

次に、このようにして構成される口内洗浄器 1 を使用して口内洗浄する場合の作業手順を説明する。最初に、洗浄器本体 3 の洗浄凹部 7 の底部に設けられている係止凸部 19 に電極 17 となる金属線等を上方から嵌めて係止し、予め上記洗浄凹部 7 の形状に合わせて切り抜いておいた保持部材 11 を上記洗浄凹部 7 内に収容する。

40

【0029】

次に、上述した洗口液 L を 1 回の口内洗浄に使用する所定の量、上記保持部 11 に滴下して含浸させる。

そして、上記洗浄器本体 3 と支持部 5 が分離されている場合には、上記支持部 5 に洗浄器本体 3 を取り付け、当該洗浄器本体 3 を使用者の口腔内に入れて例えば最初に上顎側の歯に対して下方から上記洗浄器本体 3 内に収容されている保持部材 11 を押し付けるようにして宛がう。

【0030】

次に、支持部 5 の表面の適宜の位置に設けられている操作スイッチ 25 を操作して電源

50

供給部 15 から振動発生部 13 に給電して、上記振動子 9 を所定の周波数で振動させる。

尚この時、上記振動が上述した可聴周波数域の音波による振動である場合には、当該振動子 9 の振動を音によって確認できるから、当該振動音の有無を確認しながら口内洗浄を進めて行く。

【0031】

そして、上記振動子 9 の振動は、上述した洗口液 L が含浸された保持部材 11 に対してほとんど損失なく直接、あるいは上記電極 17 を介して間接的に伝達される。

上記保持部材 11 に対して伝達された音波ないし超音波による微細振動は、当該保持部材 11 に当接している歯の表面、歯茎あるいは歯肉の境目等の深い部分に作用して所望の歯垢の除去と嫌気性菌の殺菌及び除去とを実行する。

尚、この口内洗浄器 1 を使用して行う口内洗浄の時間は約 1 分であり、通常の歯ブラシを使用して丁寧にブラッシングする場合に約 20 分かかる口内洗浄に比べて大幅な洗浄時間の短縮が図られている。

【0032】

更に、同様の手順で下顎側の歯の口内洗浄を行い、口内洗浄後は、操作スイッチ 25 を操作して電源を切り、支持部 5 から洗浄器本体 3 を取り外して、使用済みの保持部材 11 を廃棄し、電極 17 を係止凸部 19 から取り外して、当該洗浄器本体 3 を水洗い後消毒し、乾燥させてから除菌されたケース等に収納して保管する。

また、洗浄器本体 3 が取り外された上記支持部 5 については、次の使用に備えて上述した充電器等を使用して電源供給部 15 の充電を適宜、実施しておく。

【0033】

このようにして構成される口内洗浄器 1 を使用した場合には、洗浄器本体 3 を使用者の口腔内に挿入して上顎側ないし下顎側の歯に宛がうだけで 1 分間という極めて短時間で効果的な口内洗浄を行うことができる。

従って、加齢や健康上の理由で歯磨きが困難な人に対する口内洗浄作業が容易になり、歯磨きに十分な時間が取れない人に対しても短時間で効果的な歯垢と嫌気性菌の除去を行うことができるようになる。

【0034】

以上が、本発明の基本的な実施の形態であるが、本発明の口内洗浄器 1 は、上述した実施の形態に限定されるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲内の部分的構成の変更や省略、あるいは当事者において周知、慣用の技術を追加することが可能である。

例えば、図 4 に示すように前記洗浄器本体 3 を上顎側の歯を洗浄する上顎側本体部 27 と下顎側の歯を洗浄する下顎側本体部 29 の両方が設けられた一体型の洗浄器本体によって構成することも可能である。因みに、このような構成の洗浄器本体 3 を採用した場合には、上顎側の歯と下顎側の歯を同時に洗浄できるから、より短時間に所望の口内洗浄を行うことが可能になる。

【0035】

また、図 5 (a) に示すように洗浄器本体 3 自体を左右に 2 分割できるような折り畳み構造 31 を設けたり、図 5 (b) に示すように洗浄器本体 3 と支持部 5 との間に両者を折り畳んだ状態にして大きさを可変することができる折り畳み構造 33 を設けることが可能である。因みに、このような構成の洗浄器本体 3 を採用した場合には、保管時等、洗浄器本体 3 を使用しない場合に上記折り畳み構造 31 ないし折り畳み構造 33 を利用して上記洗浄器本体 3 自体または上記洗浄器本体 3 と支持部 5 とを折り畳んで、よりコンパクトな形態で保管することが可能になる。

ただし、上記図 5 (b) に示す折り畳み構造 33 を採用した場合には、洗浄器本体 3 と支持部 5 とを折り畳んだ状態で一体に保管することが想定されるから、洗浄器本体 3 に対しては別途図示しない保護キャップ等を被せて保管できるように構成することが望ましい。

【0036】

また、図示は省略するが、使用者の顎の大きさに合わせて選択して使用し得るようにサ

10

20

30

40

50

イズの違う複数の大きさの洗浄器本体 3 を予め用意しておくことが可能である。因みに、このような構成を採用した場合には、使用者は自分に合った大きさの洗浄器本体 3 を選んで直ちに当該口内洗浄器を使用して口内洗浄を実施することができるようになる。

この他、病院等で本発明の口内洗浄器 1 を使用する場合には、使用者の口腔内に溜まった水、薬液あるいは唾液等を吸引するためのサクション装置が備えられているから、特に下顎側の口内洗浄時に保持部材 1 1 から下方に流下する洗口液 L を吸引する目的で当該サクション装置を本発明の口内洗浄器 1 と併用して使用することも可能である。

【産業上の利用可能性】

【0037】

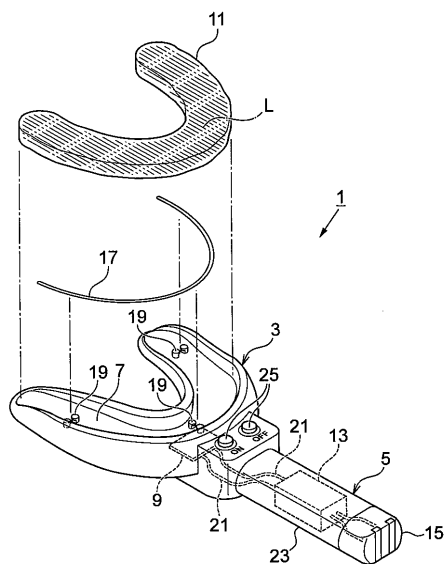
本発明の口内洗浄器は、家庭や病院等において行っている口内洗浄の現場で利用でき、特に自分で歯磨きを行うことが困難な人や歯磨きに十分な時間が取れない人に好適な口内洗浄の現場において利用可能性を有する。

【符号の説明】

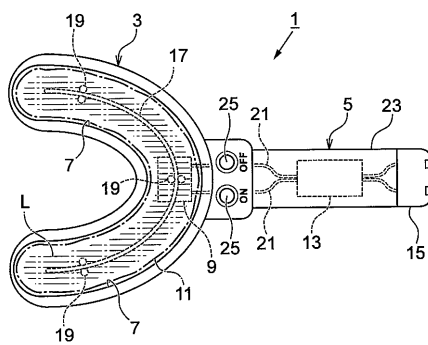
【0038】

1	口内洗浄器	
3	洗浄器本体	
5	支持部	
7	洗浄凹部	
9	振動子	
1 1	保持部材	20
1 3	振動発生部	
1 5	電源供給部	
1 7	電極	
1 9	係止凸部	
2 1	リード線	
2 3	ケーシング	
2 5	操作スイッチ	
2 7	上顎側本体部	
2 9	下顎側本体部	
3 1	折り畳み構造	30
3 3	折り畳み構造	
L	洗口液	

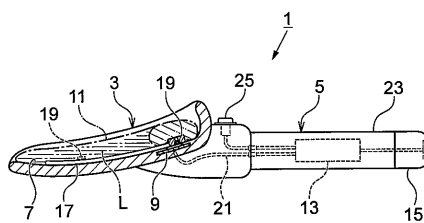
【図 1】



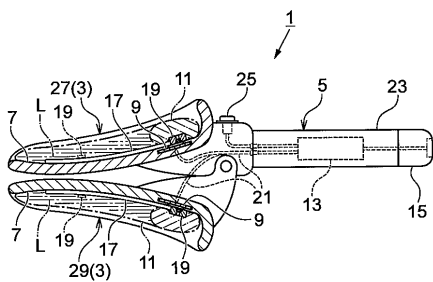
【図 2】



【図 3】

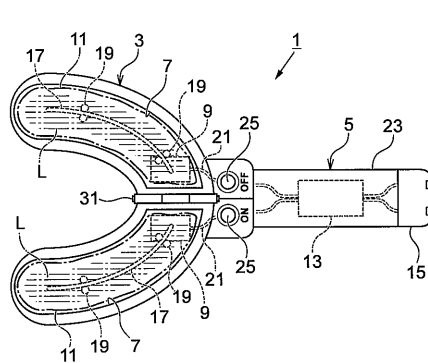


【図 4】

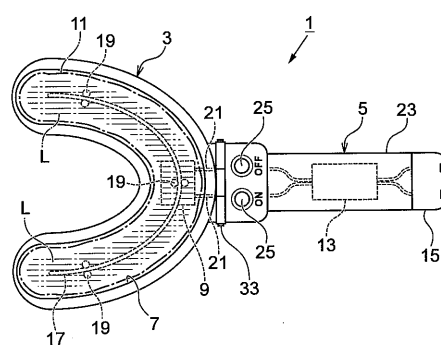


【図 5】

(a)



(b)



フロントページの続き

(72)発明者 遠藤 真弓

東京都千代田区平河町二丁目7-10 平河町レジデンス1502